

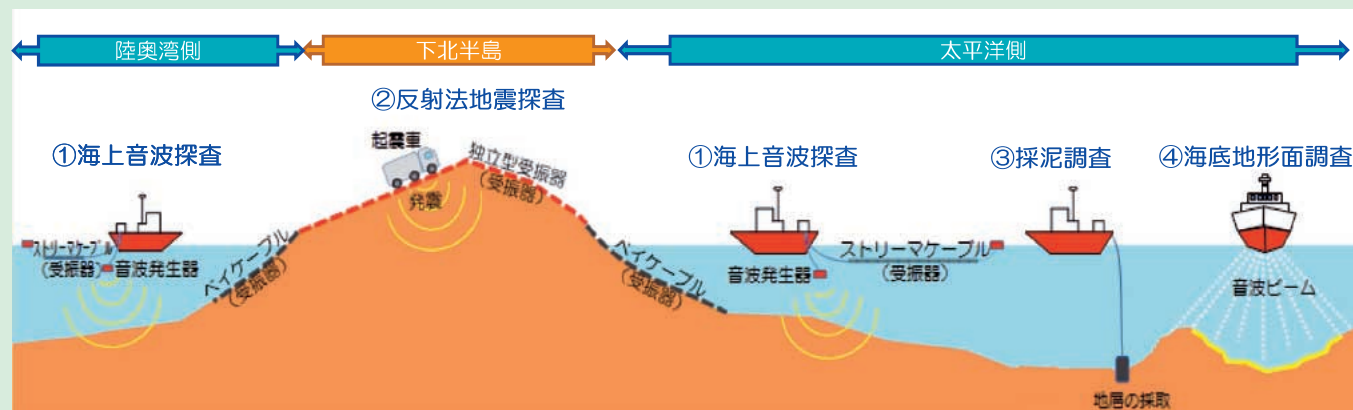
下北半島東部地域の地質構造調査を実施しています

当社は、平成24年11月より、原子力施設の安全性に関する説明性のさらなる向上を図る観点から、日本原燃株式会社およびリサイクル燃料貯蔵株式会社と共同で、太平洋側の大陸棚外縁の地形を形成した地下深部の地質構造調査を実施しており、現在は東京電力株式会社を含む4社共同で実施しております。

さらに、平成25年5月より調査範囲を陸奥湾側まで拡大し、下北半島を横断した広範囲な地質構造データを取得することとしております。

本調査は、外部の有識者から構成される第三者委員会を設け、幅広くご指導・ご助言をいただきながら、平成25年9月までに評価を実施することとしております。

【調査の概要】



①海上音波探査(総延長:約391km)

海水中で音波発生器から音波を発震させ、海底面や海底下の地層で反射・屈折した音波を受振器で測定し、地下構造を調べます。

②反射法地震探査(総延長:約12km)

起震車により人工的に発震させ、地下境界面で反射・屈折した振動を受振器で測定し、地下構造を調べます。

③採泥調査(15箇所)

海底の地層を採取し、年代分析等を行います。

④海底地形面調査(約832km²)

調査船に搭載した音響測深機から音波を発震し、海底面で反射した音波を受振し、海底地形を高解像度で面的に調べます。



調査船による海上音波探査



起震車による反射法地震探査



音波を受振するバイケーブルの敷設

原子力安全推進協会によるピアレビューを実施しました

東通原子力発電所では、平成25年5月15日から5月29日にかけて、原子力安全推進協会[※]によるピアレビュー(相互評価)を受けました。

ピアレビューは、発電所の運営状況等を世界の最高水準と比較し、「要改善事項」等を抽出することにより、自主的な保全活動の向上を支援し、安全性や信頼性をより向上させるために実施するものです。

今回は、約30名の原子力専門家により、組織と管理体制、運転、保守等の分野について、現場観察やインタビュー、議論が行われ、「良好事例」や「要改善事項」を抽出しました。

当発電所では、ピアレビューの結果を真摯に受け止め、今後、安全性・信頼性向上のための取り組みに活かしてまいります。

[※]原子力安全推進協会(Japan Nuclear Safety Institute)

東京電力福島第一原子力発電所での事故を踏まえ、日本の原子力産業界における世界最高水準の安全性を追求することを目的に、平成24年11月に設立された組織。



現場観察



インタビュー

～ピアレビュー結果概要～

【良好事例】

- ・緊急時における外部電源の復旧時間短縮に取り組んでいる。
- ・プラントの水質管理により、作業員の被ばく線量を最小限に抑制している。

【要改善事項】

- ・発電所の運営に関わる活動について、自らより高い管理目標を導入する。
- ・発電所停止時の安全管理について、より高いレベルを目指す。
- ・若年層の早期戦力化のため、教育訓練をより体系的なものに改善する。
- ・火災防護の観点から、資機材の保管方法を改善する。
- ・誤操作防止のため、発電所運転員が使用する手順書の記載を改善する。

国道338号沿道清掃を実施しました

東通原子力発電所と協力会社で組織する東通原子力発電所安全衛生推進協議会は、平成25年6月4日、発電所近くの国道338号の沿道清掃(約4km)を実施しました。

当日は、発電所および協力会社の社員50名が参加し、可燃ゴミや空き缶など、4トラック約1台分を回収しました。

同協議会では、今後も沿道清掃を通じて、環境美化活動に取り組んでまいります。

